図書紹介

白井聡『永続敗戦論』と『国体論』

『永続敗戦論』は、二〇一三年に太田出版から初版が出て、三年後に講談社から文庫本にもなり、十七年には韓国語版が出され、『マンガでわかる永続敗戦論』は、朝日新聞出版から十五年に出た。

文庫本は二九五頁の小冊子だが、はしがき、韓国語版への序文を読むだけでも、私は「目からうろこ」の思いがした。

白井聡さんは、新進気鋭の政治学者で京都精華大学専任講師でジャーナリズムにも最近はよく登場する。自ら国会前集会などに参加する学者でもある。

解説で進藤栄一氏（筑波大学大学院名誉教授）は、「日本が一九四五年八月の敗戦以来、今日まで事実上の敗戦下に、自ら進んで組み敷かれているからだとして政策過程を分析し、『永続敗戦』と呼ぶ、そしてその永続敗戦の〝分け前〟を、日本のエリートたちが、官界や政界、経済界からメディアや学界に至るまで、米国の権力層の差し出す利益に群がりつながり合って貪り続けているからだ、と結論づける」。

『国体論』は、一八年四月、集英社新書で出て既に五刷、七万部を超えるベストセラーズになっている。副題は〝菊と星条旗〟、ルース・ベネディクトの『菊と刀』に因むのは容易に分かる。

三四七頁に緻密で斬新な論証がいっぱい、知的財産が膨らむ思いがする。ＮＨＫによく登場する保阪正康氏は、「『戦後の国体』という、斬新な視点に唸った。現代の危機の本質を明確にする、優れた一冊」と。内田樹氏、水野和夫氏らも推薦。

二〇一六年八月八日、テレビを通して天皇が発した「お言葉」についても真正面から論じている。それは、古くは後醍醐天皇の討幕綸旨や幕末の孝明天皇の攘夷決行命令、明治天皇の五箇条の御誓文、そして昭和天皇の玉音放送に連なる系譜として、「天皇による天皇制批判」として、明仁天皇が象徴の在り方を構築してきた姿を安倍など権力層と対比する。

安倍首相がトランプ大統領に媚び諂う姿は、日本人全てのそれであり、世界に例のない自ら進んでの米国隷属の実態を認識しなければと。そこから真の独立国への決意が生まれると。ぜひ一読を。

（吉田武雄）